

## 日本鉄鋼協会記事

### 編集委員会

- 第6回和文会誌分科会** 開催日: 8月3日. 出席者: 田中主査, ほか 18名.
1. 20件の論文審査報告があつた.
  2. 鉄と鋼第59年第12号に, 論文11件, 共研報告1件, 特別講演1件が決定した.
  3. 60周年記念号の発行について理事会で承認された旨の報告があつた.
  4. アンケート結果についての具体的な検討がなされた.

### 原子力製鉄トータルシステム委員会

- 第1回システムエンジニアリング分科会** 開催日: 7月23日. 出席者: 正田主査, ほか 24名.

1. 中村マネジメントアンドコントロール分科会主査より「53年度までの全体俯瞰パート一次素案」の検討依頼, アンケート回答依頼があつた.
2. 正田主査よりシステムエンジニアリング分科会の活動計画が提案され, 承認された.
3. 自由討論の後,  
原子炉側からの満すべき安全基準を至急提出願いたいとSE分科会から要請した. 50 M Wt に接続されるトータルシステムは feasible model であること, とくに熱交換器システムが中心的な検討事項となることが確認された.

- 第2回マネイジメントアンドコントロール分科会**  
開催日: 8月13日. 出席者: 中村主査, ほか9名.  
マネイジメント・アンド・コントロール (M & C) 分科会の任務である「研究管理システムの設計と運用研究」

- すなわち,
- (1) 大型プロジェクトの進行管理が最適に行なえるシステムの設計
  - (2) 各サブシステム間の整合
  - (3) 原研その他外部機関との連携
- を具体的かつ効果的に行なう基礎として「情報管理システムの設計と運用研究」を行なう必要があり, そのためにもまず, 無駄のない真に必要な情報を知るために, 原子力製鉄技術研究組合・技術委員会, トータルシステム委員会および同システム・エンジニアリング分科会委員・幹事に, 必要とする情報の内容, 形態・発生源, 受けとる周期, 活用の目的などについてアンケートし, その回答について, 一応検討・整理を行なつた. 次回トータルシステム委員会には, 簡単に整理した形で提出し, 検討いただくことにした.

### 共同研究会

#### 鋼管部会

- 第13回継目無鋼管分科会** 開催日: 8月20, 21日.

- 出席者: 三瀬部会長, 中村主査代理, 1日目34名, 2日目27名. 第1日 (マンネスマン関係)

- (1) 原価低減のための努力 (アンケートまとめ)
  - ① プラグ・ミル関係……担当 住友金属・和歌山
  - ② マンドレル・ミル関係……担当 川崎製鋼・知多
- (2) 工場操業状況報告

#### 第2日 (熱押関係)

- (1) 製造原価について (アンケートまとめ) ……担当 神戸製鋼・神戸
- (2) ガラス潤滑について (共同実験まとめ) (継続) ……担当 新日鉄・光
- (3) 工具について (共同実験まとめ) (継続) ……担当 山陽特殊製鋼
- (4) 工場操業状況報告

### 原子力部会

- 第17回特許グループ** 開催日: 8月1日. 出席者: 井村主査ほか7名.

1. 森東工大教授より出された特許3件は協会の出願とすることが承認された.
2. Prof. Schenck ドイツ特許については審査で拒絶査定となつたが, 審判で特許を付与されたことを包袋調査により説明した.
3. 原子力研究組合業務委員会より業務委員会の特許関係の仕事も引き受けてもらいたいとの要請があつたので, 検討した.
4. 特許グループ各員より協会に対し, 原子力部会の今後の活動方針を明らかにしてほしいとの発言があつた.

### 標準化委員会

#### ISO 鉄鋼部会

- 第10回部会** 開催日: 8月23日. 出席者: 豊田部会長, ほか17名.

1. 国際会議出席報告  
本年行なわれた SC4, SC9, SC10, SC12, SC15の国際会議について出席代表者から報告が行なわれた.
2. TC17 総会について  
9月開催の TC17 ワシントン会議の派遣者を吉田(鉄協)青木(新日鉄)仁木(川鉄)川本(住金)清水(神鋼)吉武(冶金)の6名に決定した.  
なお, 上程される規格案について検討を行なつた.
3. ISO 基金  
機械振興資金 3.6 億円. 民間資金 1.2 億円計 4.8 億円 (4 年計画) から成る国際標準化迅速資金を設け, 国際会議の出席や国内審議経費補助を行なつて国際標準化事業を迅速することになつた.

- 第31回 SC4 分科会** 開催日: 7月24日. 出席者: 清水主査, ほか9名.

1. 第15回 TC17/SC4 国際会議宿題事項の検討

工具鋼、耐熱鋼および合金、耐クリーブ鋼および合金電気溶接チェーン用鋼について検討した。とくに、耐クリーブ超合金については、ジェットエンジン関係のデータの有無を調査することになった。

## 2. TC17 総会について

TC17 ワシントン会議の SC4 関係の議案である折出硬化型ステンレス鋼ボールおよびローラベアリング鋼、焼ならしおよび焼ならし後冷間引抜非合金鋼の3規格案の検討を行なった。

**第11回SC9分科会** 開催日：7月27日。出席者：田中主査代理、ほか5名。

### 1. TC17/SC9 国際会議報告

6月18～19日開催の第10回 SC9 国際会議の報告が行なわれた。とくに日本意見はすべて採用され、さらに調整役にまわって会議をリードするなど議長に協力的な役割を果たした。

### 2. TC17 総会について

TC17 ワシントン会議に上程されるブリキおよびブリキ原板のパッケージについてはとくに意見なく賛成で望むことにした。

**SC12 分科会** 開催日：8月13日。出席者：三佐尾主査、ほか8名。

### 1. 国際会議出席報告

6月4～8日開催の第6回 SC12 国際会議の報告が行なわれた。審議規格はつぎのとおり。

- 143 E 構造用熱延板 (降伏点 220～320N/mm<sup>2</sup> 級)
- 144 E 構造用熱延板 (降伏点 350～490N/mm<sup>2</sup> 級)
- 145 E 構造用冷延板 (降伏点 220～550N/mm<sup>2</sup> 級)
- 147 E 構造用亜鉛鉄板
- 148 E ターンシート

熱延板、冷延板、亜鉛鉄板とも、降伏点ベースとなった。

**SC15 分科会** 開催日：8月15日。出席者：青木主査ほか11名。

### 1. 国際会議出席報告

6月26～28日開催の第1回国際会議の報告が行なわれた。議題は幹線用レールを対象にし、U.I.C Code Section 1. の11～16まで検討した。当所、ヨーロッパ諸国は、U.I.C Code をかなり大幅に支持することが予想されたが、各国とも是々非々の態度で審議が行なわれた。しかしフランス、ベルギー、イタリアはかなり U.I.C Code を支持する立場が多くみられた。

**普通鋼分科会** 開催日：8月8日。出席者：青木主査ほか18名。

### 1. 自工会協定規格案の検討

自工会から提出された熱延高張力鋼板・帯 (50キロ級～80キロ級) および冷延高張力鋼板・帯 (40キロ級～70キロ級) 協定規格案について現状との対比、および自由討議を行なった。

### 2. 造船用鋼材の統一記号

造船資材懇談会の結論をもとに検討を行ない造船工業会に提出する統一記号案を作成した。

**焼入性試験 JIS 原案作成分科会** 開催日：7月25日。

出席者：津谷主査、ほか19名。

JISG 0561 鋼の焼入性試験方法 (一端焼入方法) の改正に当たり、先に行なわれた鋼質判定試験方法分科会で行なったアンケート結果を基に審議を進めた。

アンケート結果中最も論議が集中した点は次の点である。

### 1. 試験値のバラツキについて

たとえば、材料メーカーのミルシート記載値とユーザーの受け入れ検査値に差があるなど、この試験法で試験した場合どの程度のバラツキが生ずるものかを何らかの形で解説へ記載してほしいとする要望が多くあつた。この問題の取りあつかいは今後審議すべきことである。

### 2. SAC 法のとおりあつかい

ジョミニー試験法のほかに SAC 法も JIS 化すべしとする意見が多く出されている。この点をも今後審議していく。

**第3回引張・衝撃試験原案作成分科会小委員会** 開催日：8月22日。出席者：宮尾主査代理、ほか13名。

### 1. 衝撃試験片、同方法

JIS 第3次原案を検討し小委員会案を作成した。さらに解説案の検討を行なった。

### 2. 引張試験片

第1次幹事案について検討した。とくに ISO 試験片を採用することを前提としたため、1B号、6号、7号、9B号を廃止し、3号、4号、5号、10号、11号および12号も次期改正時には廃止する提案なので慎重に取り扱うことになり、各委員から書面で意見を徴取することになった。

## 鉄鋼基礎共同研究会

**運営委員会** 開催日：7月16日。出席者：三島委員長ほか21名。

1. 前回議事録、基共研運営委員会名簿が確認された。  
2. 共研47年度予算対実績比較、48年度予算、1/4 半期実績が承認された。

3. 昨年12月8日より7月16日までの各部会の活動報告が部会長 (あるいは代理者) よりなされた。

再結晶部会……………阿部部会長  
固体質量分析部会……須藤部会長  
強度と靱性部会……………八子協会部員  
遅れ破壊部会……………堂山教授  
凝固部会……………郡司部会長

4. 来年度からの新規テーマ「特殊精錬」の部会長選出のための委員を選出することになった。

5. 協会事業アンケート結果のうち基共研に関する項目についてまとめたものが協会より発表された。

**再結晶部会** 開催日：7月11日。出席者：阿部部会長ほか42名。

1. 第7回再結晶部会幹事会議事録 (協会作成) が承認された。

2. 下記の発表があり、それぞれについて質疑応答がなされた。

(1) 鉄鋼合金の析出の電界イオン顕微鏡観察…新日鉄基礎研

- 
- (2) 鉄中の AlN 微細析出物の結晶学的解析…金材技研, 日本電子  
(3) Cu 添加鋼の再結晶と集合組織…日本鋼管技研  
(4) Cu 添加鋼の再結晶挙動に及ぼす C および熱延処理の影響…住友金属中研  
(5) Ti 添加深絞り用鋼板について…新日鉄堺, 八幡
- 

#### 第 4 回結晶成長国際会議 (ICCG-4)

標記の国際会議の申込締切期日が近づきました。未だ申込んでおられぬ方は、下記御参照の上至急お申込み下さい。

主催：日本学術会議

共催または協賛：日本鉄鋼協会ほか 10 学協会

会議のテーマ：結晶成長に関する基礎および応用

会議の期日：1974 年 3 月 24 日～29 日

会議の場所：東京，経団連会館

論文提出申込締切期日：1973 年 9 月 15 日

出席登録締切期日：1973 年 11 月 30 日

申込および問合せ先：〒106 東京都港区六本木 7-22-34 日本学術会議国際会議係  
電話 03-403-6291